

笹生川ダム見学会におけるアンケート調査結果

久保 光¹

¹福井県奥越土木事務所笹生川・浄土寺川ダム統管理事務所（〒912-0021福井県大野市中野28-36-1）

笹生川ダム見学会時に参加者に対してアンケートを行った。その結果、以下のことがわかった。(1)見学者は、大野市内20%、県内（大野市内除く）50%、県外30%であった。(2)男女の比率は男性65%、女性35%であった。(3)参加者の約60%が50歳以上であることから年齢層が高い。(4)参加者の多くが満足している。(5)見学会の長さ（40分）は妥当である。(6)参加者が一番心に残っているのは、監査廊内が涼しかったこと、急な階段、竣工60周年記念ダムカードなどである。(7)ダムを見学することにより、ダムへの理解が深まる。また身近に感じられるようになることがわかった。

キーワード ダムの役割、ダム見学、森と湖に親しむ旬間

1. はじめに

2017年7月29日（土）、森と湖に親しむ旬間（2017年7月21日（金）～31日（月））に合わせ、笹生川ダム見学会を実施した。森と湖に親しむ旬間とは、国民の皆さんに、森と湖に親しみ心身をリフレッシュしながら、森林やダムの重要性について理解を深めていただくことを目的として、1987年に国土交通省及び林野庁が制定した。主催は、「森と湖に親しむ旬間」行事運営委員会である。構成機関は、福井森林管理署、福井県、大野市、電源開発(株)、北陸電力(株)、関西電力(株)、大野市漁業協同組合、福井河川国道事務所、九頭竜川ダム統管理事務所である。ここでは、笹生川ダム見学会の時に参加者に行ったアンケート結果について報告する。

2. 笹生川ダムの概要

九頭竜川は、その源を福井県・岐阜県の境界油坂峠に発し、途中130余河川を合流し、年間約80億 m^3 の水を日本海に流出している流域面積2,930 km^2 、流路延長116kmの北陸地方でも屈指の大河川である。笹生川ダムは、この九頭竜川の支川真名川上流の福井県大野市本戸地先に位置し、戦後初のビッグプロジェクト真名川総合開発事業の一環として総事業費48億6,920万円を投入して建設された多目的ダムである。写真-1は、笹生

川ダム全景を示す。図-1はダム湖周辺状況を示す。ダムは、重力式コンクリートダムとして高さ76.0m、総貯水容量58,806,000 m^3 、有効貯水容量52,243,500 m^3 で洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給および発電を目的とするものである。ダム完成後、1965(S40)年9月の奥越豪雨でダム放流能力をはるかに越えた洪水量がダム湖に流入、ダム本体を越流する危険な状態が発生したため、今後この様なことが起こらないように事業費24億円を投入して排水トンネル工事を実施した。

経緯 1952(S27)年3月 実施計画調査着手
1955(S30)年4月 付替道路・仮排水路着手
1955(S30)年5月 ダム本体着手
1957(S32)年11月 完成
1973(S48)年6月 排水トンネル着手
1977(S52)年10月 排水トンネル完成



写真-1 笹生川ダム全景

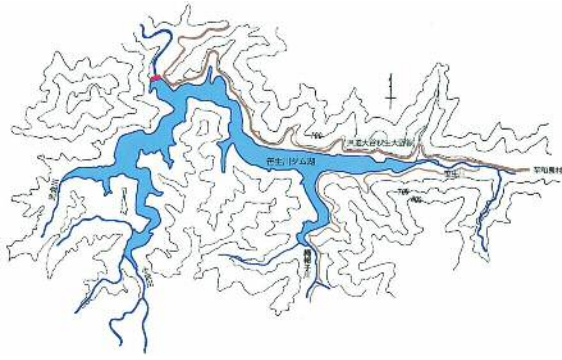


図-1 ダム湖周辺状況

3. 見学会ルート

図-2 は、笹生川ダム見学会案内図を示す。見学者への対応は、見学者 5 名に対し 2 名の説明者を基本とし所要時間は 40 分とし 3 班体制で行った。

笹生川ダム監視所にて見学者の受付を行い、ダムカードとアンケート用紙を渡した。各場所での見学ポイントを示す。

- ① 監視所内にダムの概要・写真等の展示
- ② 余水吐ゲート，ダム湖の景観（ダム上流面）
- ③ 放流状況（維持放流）を下流側右岸道路より見下ろす
- ④ 常用洪水吐（クレストゲート）を堤頂より望む
- ⑤ チャレンジコース：体力に自信のある方のみ、年齢制限等あり

笹生川ダムサイト実測平面図 S=1:1,500

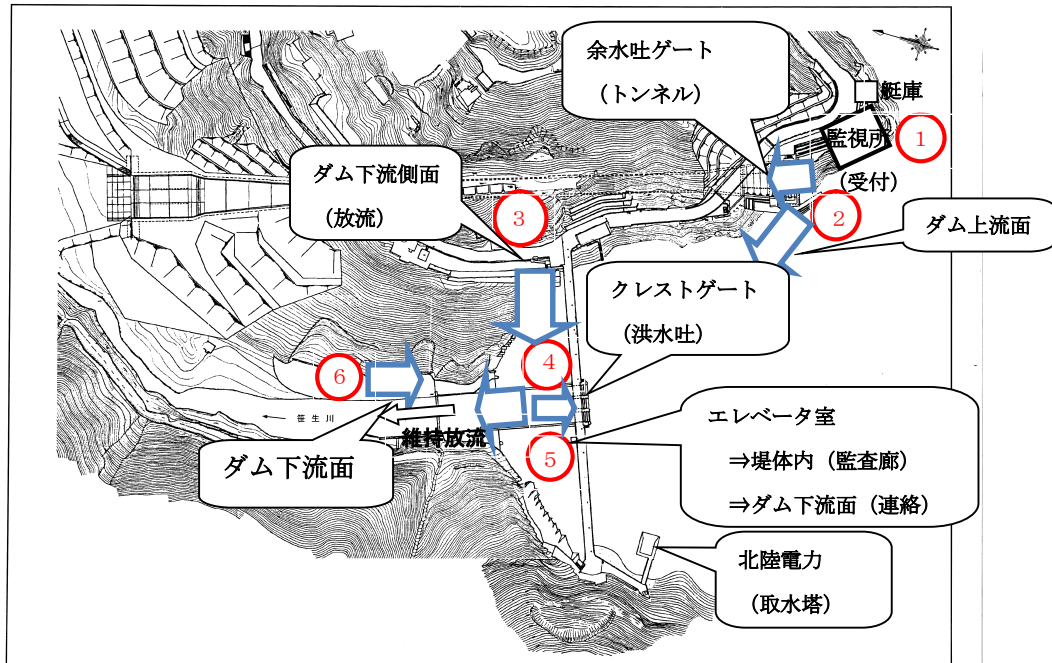


図-2 笹生川ダム見学会案内図

堤体右岸下流側からの眺望

監査廊階段（約 60 段,18m）を降り、外へ出て堤体を見上げる

ビューポイント②，⑥にて写真撮影を行った。写真-2 は，②での「笹生川ダム祝 60 年」うちわでの写真撮影状況を示す。写真-3 は，監査廊階段を見学者が歩く状況を示す。



写真-2 「笹生川ダム祝60年」うちわでの写真撮影状況



写真-3 監査廊階段（約 60 段,18 m）

4. アンケート調査結果の概要

2017年7月29日(土)11:00~16:00, 笹生川ダム見学会を実施した。見学者(100名)に対し、アンケート調査を実施した結果54名から回答があった。回収率は54%であった。

図-3は、「どこから来られましたか」の問いに対する回答である。大野市内20%, 県内(大野市内除く)50%, 県外30%であった。男女に比率は男性65%, 女性35%であった。

図-4は、「年齢を教えてください」に対する回答である。30歳以上49歳未満が38%, 50歳以上が58%であった。参加者の約60%が50歳以上であることから年齢層が高いことがわかった。

図-5は、「見学会は楽しかったですか?」に対する回答である。とても楽しかった67%, 楽しかった23%, 普通10%, あまり楽しくなかった0%, 楽しくなかった0%であった。とても楽しかったと楽しかったを合わせると90%であることから、参加者の多くが満足したと考えられる。

図-6は、「見学会の長さ(時間)はどうでしたか?」に対する回答である。ちょうど良かったが96%, 長すぎたが0%, 短すぎたが4%であった。ちょうど良かったが96%であったことから、見学会の長さ(時間)は妥当であったと考えられる。

次に、「見学会でよくわかったのはどんなところですか?」に対する回答の主なものを以下に示す。

- ・ダムの役割
- ・古いダムでもきちんと管理がされている
- ・ダム内部の様子
- ・笹生川ダムの偉大さ
- ・古いダムというのにそんな感じはしなかった
- ・ダムの中(はじめて入りました)
- ・ダムの下におりられたこと
- ・奥越豪雨のすごさとその対策

次に、「一番心に残っているのは?理由は?」に対する回答の主なものを以下に示す。

- ・涼しかったのと階段が急だった
- ・気温が低くて印象に残りました
- ・祖父が直接関わったダムで誇りに思う

- ・急な階段
 - ・排水トンネル出口
 - ・ダムの下, 見上げた時の大きさ
 - ・できてから60年もたつということ
 - ・洪水であふれそうになりふるえていたこと
- 次に、「あなたは笹生川ダムについてどう思っていましたか?今日の見学会で変わりましたか?」に対する回答の主なものを以下に示す。

- ・水がとてもきれい
- ・これまで何回も訪れましたが, 直接説明を受けたのは今回が初めてです。
- ・より身近に感じた
- ・とても歴史のあるダムだとわかりました
- ・60周年のダムカードがあった
- ・はじめてでいろいろ知れた
- ・初めてなので, ダムってすごい
- ・他のダムと違い歴史が古い
- ・存在を知らなかった(県内:70歳男性)
- ・初めてきました。地元でも良く知りませんでした。

次に、「本日の見学会の感想や聞きたいことがあれば自由に書いてください」に対する回答の主なものを以下に示す。

- ・うちわは良かったです
- ・インクライン(艇庫から水面まで船を運搬する装置)も見れると良い
- ・雲川ダムと笹生川ダムとの役割分担と発電所(中島)の関係
- ・真名川ダムでも, もう少し宣伝すると良いと思います。
- ・ガイドさんの説明の仕方が良く, よくわかって良かったです。有難うございました。
- ・昔からのエピソードをもっと盛り込んでもらえると Good
- ・ゲート室のゲートが動くしくみを知りたかった
- ・年2回くらい見学会をしてもらいたい
- ・道案内にあと0.0kmがあると良かった。食事エリアがあると良かった。
- ・ダムカード良いです。集めたい気持ちになります。
- ・ダムができる前そこに住んでいた人たちのことも知りたいと思う

普段見られない場所を見ることができ、貴重で有意義だと思います。今後もこのイベントを続けていただけることを願います。

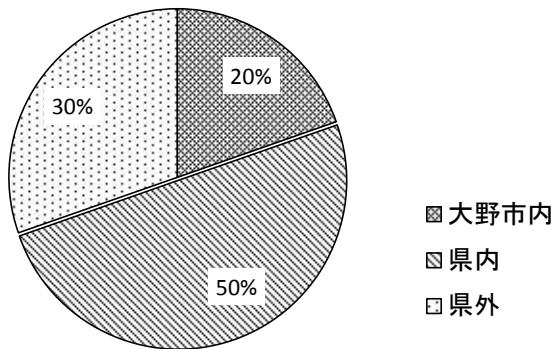


図-3 「どこからこられましたか」に対する回答

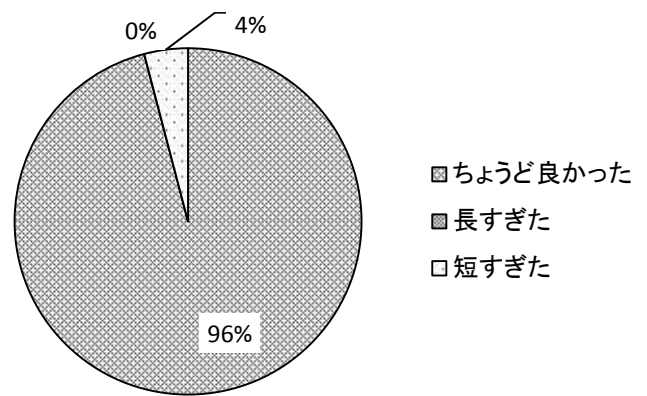


図-6 「見学会の長さ（時間）はどうでしたか？」に対する回答

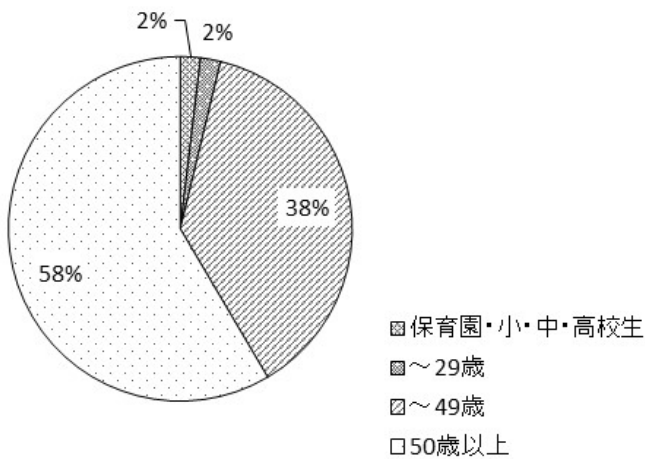


図-4 「年齢を教えてください」に対する回答

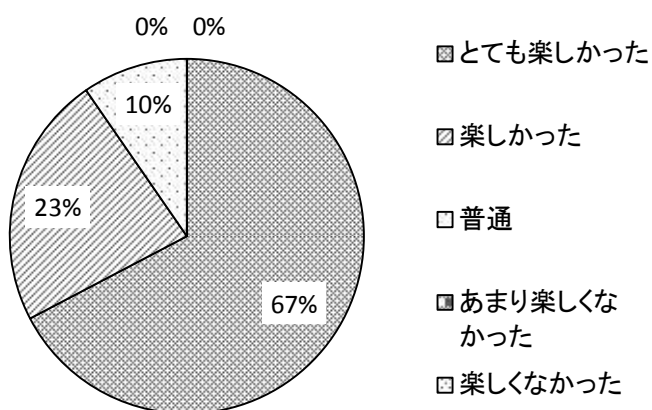


図-5 「見学会は楽しかったですか？」に対する回答

5. おわりに

今回、森と湖に親しむ旬間（2017年7月21日（金）～31日（月））に合わせ、笹生川ダム見学会を実施したところ、100名の参加を得た。見学者に対し、アンケート調査を行った結果、以下のことがわかった。

- (1) 見学者は、大野市内 20%、県内（大野市内除く）50%、県外 30%であった。
 - (2) 男女の比率は男性 65%、女性 35%であった。
 - (3) 参加者の約 60%が 50歳以上であることから年齢層が高い。
 - (4) 参加者の多くが満足している。
 - (5) 見学会の長さ（40分）は妥当である。
 - (6) 参加者が一番心に残っているのは、監査廊内が涼しかったこと、急な階段、竣工 60周年記念ダムカードなどである。
 - (7) ダムを見学することにより、ダムへの理解が深まる。また身近に感じられるようになる。
- その他、ダム建設に関するエピソードを盛り込むことや、ダムができる前、そこに住んでいた人たちのことも知りたいという意見があったことから今後文献調査や聞き取り調査を行い、更に充実した見学会となるよう努力する所存である。